

第1回 バックアップセミナー北摂 参加報告書

2018年5月27日

豊中市千里文化センター「コラボ」

林 晴信

●バックアップセミナー北摂の趣旨（チラシより）

地域から、生活の現場から、民主主義を取り戻し、確かな地域をつくる地道な取り組みが今ほど必要とされている時はありません。

「バックアップセミナー北摂」は、「議員選挙にチャレンジしよう」とする市民、「自分たちの仲間を議会へ送り出そう」とする市民のための企画です。講師からの問題提起を受けて、受講生・議員がグループディスカッションする講座形式。一人ひとりが政治に向き合い、地域課題を共有し、暮らしの中から見えることを政策提案につなげていきます。お任せでなく、自ら政治に関わろうとする市民が増えること、政治を市民の手に取り戻すムーブメントが広がり、高まることを期待しています。

第1部 基調講演「地方自治・市民自治と議会」

■講師■

土山希美枝（龍谷大学政策学部教授）

第2部 パネルディスカッション「地方議員の活動現場から」

■ファシリテーター■

土山希美枝

■パネラー■

木村真（豊中市議）・戸田靖子（島本町議）・牧野直子（元箕面市議）

○所感○

西脇市のような田舎町での「なり手不足」からの議員候補者発掘・育成とは違う動機だが、参考になればと思い参加した。

西脇市議会議員選挙

選挙年	議員定数	立候補者	当選者	投票率
1996年 4月	20人	24人	20人	76.96%
2000年 4月	20人	25人	20人	77.65%
2004年 4月	20人	21人	20人	68.86%
2005年 11月	20人	24人	20人	72.28%
2009年 10月	18人	20人	18人	67.02%
2013年 10月	16人	16人	16人	無投票
2017年 10月	16人	19人	15人	57.81%

表から見てとれる通り、近年はなり手不足が目立ってきている。2017年の選挙は結果としては選挙になったけれど、直前まで「また無投票か？」という懸念は消えなかった。それが為もあってか、立候補はしたものの法定得票数にすら達しない者が4名も出て、1名欠員になるという市民の言を借りれば「お粗末な選挙」となったのである。

私が今回、この「バックアップセミナー北摂」に参加しようと思った理由はここにある。西脇市でも議員候補者を発掘するようなイベントなりセミナーが出来ないか、または市民に地方自治を考えるきっかけ（主権者教育・議会への理解）のようなイベントができないかと思ってのことである。

土山先生の講演は市民向けを意識しているので、非常にわかりやすいものだった。

■自治体は何のためにあるのか？■

- ・市民が必要不可欠とする〈政策・制度〉を整えるための機構

■自治体の〈政策・制度〉とは？■

- ・個別事業とその集合（施策）
- ・事業の実行プログラムとしての計画
それを実行する組織
- ・条例・例規・要綱などのルール（準則）
運営の方針など

■市民からの信託の成果物は〈政策・制度〉■

- ・市民は政府（自治体）に資源を信託すると〈政策〉で返ってくる

■政策には正解がない■

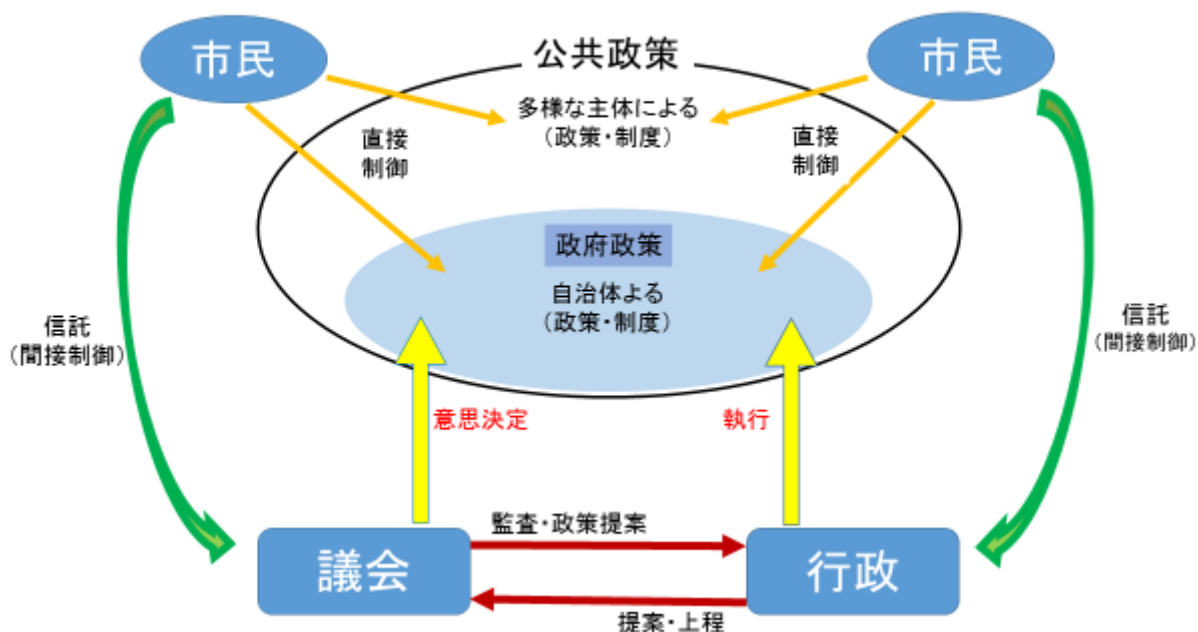
- ・地域や利害関係、世代などさまざまな理由によって「いい政策」は違う。
- ・何が必要不可欠なく政策・制度なのか？
- ・課題は無限、資源は有限・・・選択と集中が必要
- ・政策は現在から出発し、「描いた未来」へ到達するための手段
未来のことはわからないので、「あらかじめわかっている正解」は無い

■議論と決断の重要性■

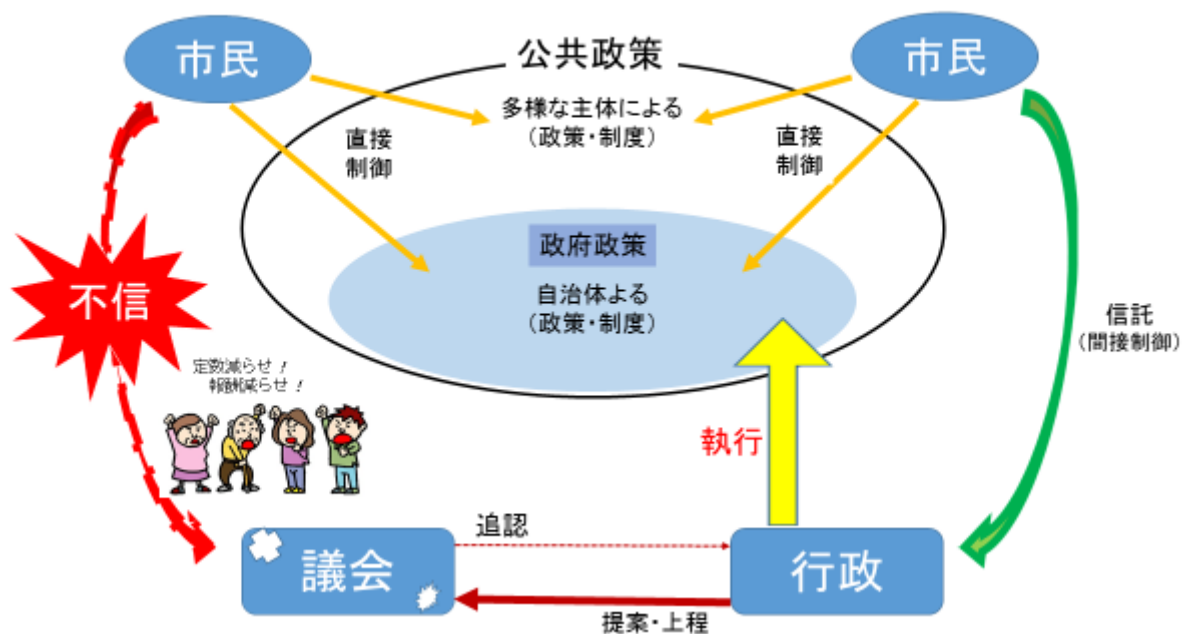
- ・「正解」があるなら議論はムダ！！
しかし「正解」が無い中で「自らの決断」をしなければならず、自治体としてのその権限は議会にある
- ・議論をして現状での最適解を導き、決断する

■自治体の〈政策・制度〉はどのように制御されるのか■

【制度設計では】



【実態は・・・】



上図では、議会が本来の機能を発揮しないと（サボっていると）市民は不信を募らせるというイメージを表している。我が市でもこういう状況にないか、全議員が考える必要がある。

■議会の5課題■（松下圭一 1991）

- ①政治争点の集約・公開
- ②政治情報の整理・公開
- ③政治家の選別・訓練
- ④長・行政機構の監視
- ⑤政策の提起・決定・評価

■議会は「議論するヒロバ」→政策議会になれるか■

「ヒロバ」とは公開の場を指す
議会改革の核心が、実は苦手科目
「議論する議会」そこへの「参加と情報公開」

■議会が「市民にとってよりよい<政策・制度>をつくる」役割を果たすためには■

- ・わがまちの<政策・制度>の課題を掘り起こす→「争点」の重要性
- ・「争点」は、わがまちの暮らしの現場にある→当事者としての市民が起点
- ・わがまちの「課題」を市民と共有する→情報公開と参加

■これまで、なぜそれができなかったのか？■

- ・「間違わない行政」の「確かめ算（検算）」をする「追認機関」としての議会
　　そういう「議会－行政」の関係を許してきた市民
- ・「後援者と議員」の関係への埋没、「市民と議会」の関係構築の不足
- ・チームとしての議会より、ライバルとしての他議員
　　議会はネタミとヒガミのジェラシックパーク？

全体最適を考えることが大事！

■議会は「市民の政策議会」になれるか？■

- ・本当は、議会は、行政とは違う役割と魅力で市民とつながることができる
- ・市民にも「行政は間違わない／間違っってはいけない」がある。
　　でも、政策に正解は無い。
　　だから、「私たちにとってよい答え」「よい<政策・制度>」をつくる機構の活用を。
- ・市民と議会の「もやい直し」を
　　「そうだ議会がある！」←頼れる議会
　　「市民のための議会」をつくりだせるか？
　　議会と市民が共有できるコンテンツは、「議員」と「争点」

市民と議員による「議会像」「議員像」のリニューアルを！

土山先生の著書は2冊と幾つかのレポートを読み、講演は3回目なので、先生の言わんとするところはよくわかるし、私が以前から考えていることともだいたい合致している気がする。

「議員の質疑、質問は要するに課題点、問題点探しである。論点提起できない質問にどれほどの意味があるのか」という私の自説と同じく、市民を起点とした課題を掘り起こし、争点提起して、課題を共有することが大事、つまり「モメることが大事」と仰った。我々は議案等に対し、議会の中で、委員会の中で、「モメる」ような議論をどれほどできているだろうか。議案に対しては土山先生のいう「確かめ算」に終始しているのではないだろうか。

だから「議会は何故必要なのか？」という問いに答えを窮するのである。

我々が選挙で市民から預けられたのは、「決断する権限」である。運動会やイベントに「来賓として呼ばれる権利」ではない。土山先生のいうように「正解のない政策」に対し議論をして最適解を導き、そして決断することにある。以前に西脇市に研修講師として来ていただいた江藤俊昭先生のいう「議決権の重みを感じていますか」も同義であると思う。

西脇市議会では「議会と語ろう会」で、全国でも珍しいくらい小まめに住民の意見を聞いて回っているが、その意見や要望、やり取りの中から、どれほど課題抽出が出来ているだろうか。要望をそのままぶつけて終わっていないだろうか。ビジネスの世界ではデマンド（欲求）をニーズ（需要）に変えることが必要とされている。我々は市民からもたらさせる多くの要望から全体最適を考え、課題を抽出し、その課題解決のための政策を作らなければならない。もういちど我々のやっていることの点検が必要であるように感じる。

デマンドに応える ⇒部分最適だけ

ニーズに応える ⇒全体最適へ

政策議会への鍵は「討議」にあり。

土山先生は、討議をするには意思決定からなるべく離れた場が良いと言われている。意思決定の場で討議をしようとする、多くは討論になり、賛否の理屈を言い合うだけの場になりがちだと指摘されている。

西脇市議会では一昨年より、委員会審議の前に質問事項を持ち寄り、全体共有をはかる場を持っている。これをもっと活用しなければならない。現在は、ほとんどの議員がサボっている状態にあり、あまりこの場に質問等を持って来ないが、ここでしっかり質問背景、課題点、論点を炙り出しておくことが、本当の意味での審議の充実につながると思う。

先の図をもう一度見てほしい。

議会が政策に関わるのは「意思決定」をもって関わるのである。

議員が説明員たる職員に要望して、政策の実現を待つというのは従属的発想である。

議員が説明員たる職員から説明等を聞いて、「議会（委員会）で議論」（討議）して、そして意思決定をして政策を作る。

或いは、討議して、意思決定をして、執行機関に伝え、政策を実現させるものである。

勘違いしてはならない。

議会への理解を深めること。本来の主権者教育そのものが結局議員のなり手不足の解消にも繋がるのではないだろうか。

今回、市民を交えての議会のあり方論を聞き、参加のみなさんとも軽いワークショップをする中で、議会というものへの理解を深めることが議員のなり手を増やすことになるのではないかと感じた。議員のなり手までとはいかなくとも、議会への理解、地方自治への理解を深めることが、結局、議会のレベルアップに繋がるのではないだろうか。

我々は議会での研修というと議員だけで行うことを考えてしまう。そうではなくて、「市民とともに学ぶ」ことが必要だと感じている。市民が「議会とはどういうものか」「自治とはどういうことか」を正しく理解してもらわなければ、我々議員だけがいくら頑張っても議会のレベルは上がらないだろうと思っている。

よくいわれるように、「議会のレベル」とは「市民のレベル」であるからだ。どちらか一方だけが極端に高いことなどありえない。

「市民とともに学ぶ」取り組みは、最初はなかなか関心を示す市民は少ないだろうし、凹むことになるのかもしれない。しかし困難だからといって最初の一步を踏み出さないと、遠くにあるゴールが近づくことは無い。

【市民とともに学ぶ取り組み例】

- 市民と一緒に研修（またはシンポジウム）を行う
- 議会モニター制度を取り入れる⇒議会がどうすればより良くなるかを一緒に考える
議会だよりモニターから始めても良いかもしれない

第2部のパネルディスカッションでは、それぞれの議会での苦労談が展開されていたが、正直、あまり参考にならないのではないかと感じた。土山先生は一生懸命「議会としての取り組み」を語られたが、パネラーの議員及び元議員は個人で精力的に頑張っている方々で、その頑張り自体は敬意を表するものではあるが、「しつこく質問して、執行部から言質をとって政策に反映させる」等はテクニック論であり、議会論の本質からは遠いなあ、と感じた次第である。しかもみなさん、少々話が長い。

最後に会場で「議員になろうと真剣に考えている方は手を上げてください」との間に、3名が手を上げていた。これからまだあと3回セミナーがあるが、この数が増えていくのを見たいとも思う。